

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	青森県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	柏村立柏中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	2	0	4	10
生徒数	36	38	56	0	130	

研究の概要

1. 研究主題

「生徒の学習意欲を育て、確かな学力を身につけさせるための指導の工夫についての研究」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年の数学を選択した理由は、生徒の理解の状況に差が生じやすい教科であり、昨年度からの当該教科に関する研究実績があるため

1 学年・数学 T・T及び習熟度別クラス編成による指導

2 学年・数学 1クラス3TによるT・T指導

3 学年・数学 2学級を3習熟度別クラス編成による指導

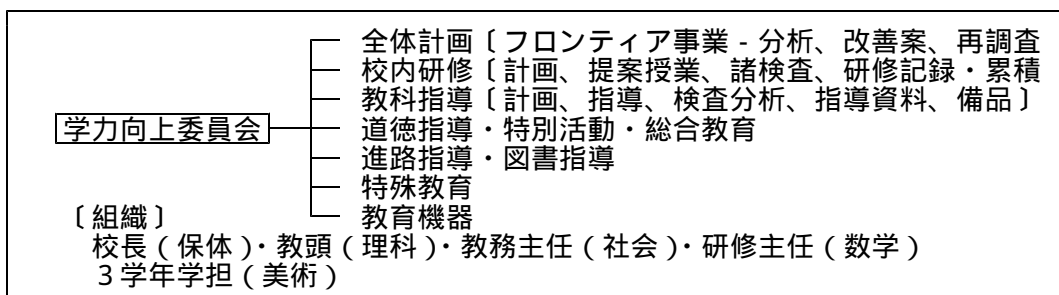
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 生徒の学習意欲を育て、確かな学力を身につけさせるための指導の工夫についての研究</p> <p>仮説 各教科では一人ひとりの生徒の実態に応じて、習熟度別学習形態などの工夫を凝らした授業を行い、学活・教科等ではグループ・エンカウンターの手法を取り入れ、より良い人間関係を形成することで生徒の学習意欲を高め、一人ひとりの生徒に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>研究内容</p> <p>個に応じた指導の在り方 グループ・エンカウンターの実践の在り方 生徒の学習意欲を高める評価の在り方 学校行事等との関連を考慮した放課後学習と家庭学習の宿題の在り方</p> <p>研究方法</p> <p>標準学力検査・アンケート等で生徒の実態の把握。 習熟度別指導・TT指導における提案事項を含んだ提案授業の実施。 仮説検証(提案事項)を視点とする研究協議の実施。 提案授業の成果を加味した、略案による授業公開の実施。 外部講師を招聘しての学習会の実施。 生徒の学習意欲を高める評価の在り方の学習会の実施。 指導主事による計画訪問以外の要請訪問の実施。</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 生徒の学習意欲を育て、確かな学力を身につけさせるための指導の工夫についての研究</p> <p>仮説 各教科では一人ひとりの生徒の実態に応じて、習熟度別学習形態などの工夫を凝らした授業を行い、学活・教科等ではグループ・エンカウターの手法を取り入れ、より良い人間関係を形成することで生徒の学習意欲を高め、一人ひとりの生徒に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>研究内容 個に応じた指導の在り方 グループ・エンカウターの実践の在り方 生徒の学習意欲を高める評価の在り方 学校行事等との関連を考慮した放課後学習と家庭学習の宿題の在り方</p> <p>研究方法 標準学力検査・アンケート等で生徒の実態の把握。 習熟度別指導・TT指導における提案事項を含んだ提案授業の実施。 仮説検証（提案事項）を視点とする研究協議の実施。 提案授業の成果を加味した、略案による授業公開の実施。 外部講師を招聘しての学習会の実施。 生徒の学習意欲を高める評価の在り方の学習会の実施。 指導主事による計画訪問以外の要請訪問の実施。 情報検索を行い、同一テーマ実践校の成果を参考にする。 県内外の先進校視察を行い、その報告会をその月の校内研で行う。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 生徒の学習意欲を育て、確かな学力を身につけさせるための指導の工夫についての研究</p> <p>仮説 各教科では一人ひとりの生徒の実態に応じて、習熟度別学習形態などの工夫を凝らした授業を行い、学活・教科等ではグループ・エンカウターの手法を取り入れ、より良い人間関係を形成することで生徒の学習意欲を高め、一人ひとりの生徒に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>研究内容 個に応じた指導の在り方 グループ・エンカウターの実践の在り方 生徒の学習意欲を高める評価の在り方 学校行事等との関連を考慮した放課後学習と家庭学習の宿題の在り方</p> <p>研究方法 標準学力検査・アンケート等で生徒の実態の把握。 習熟度別指導・TT指導における提案事項を含んだ提案授業の実施。 仮説検証（提案事項）を視点とする研究協議の実施。 提案授業の成果を加味した、略案による授業公開の実施。 外部講師を招聘しての学習会の実施。 生徒の学習意欲を高める評価の在り方の学習会の実施。 指導主事による計画訪問以外の要請訪問の実施。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

生徒一人一人を大切に、個に応じた指導を心がけるようになった。
 教育の正否を握る鍵である、教師の意識改革を高めることになった。
 生徒や保護者が指定校の実態を理解し協力的になった。
 個々の教師が専門的知識を得た。

習熟度別指導の良かった点

- ・授業への集中力が高まった気がする。
- ・指導内容を絞り込みやすい。
- ・気軽な気持ちで質問が来る。
- ・机間支援がしやすくなった。
- ・教師間での情報交換の頻度が多くなった。
- ・指導の在り方やプリント作成など授業改善に向けて努力するようになった。

標準学力検査NRT（15年4月実施）の結果から、数学の偏差値を表にすると、次のようになる。

数 学	1 学 年	2 学 年	3 学 年
平成14年度	51.3	45.6	49.5
平成15年度	50.9	48.3	48.5
年度比較	-0.4	+2.7	-1.0

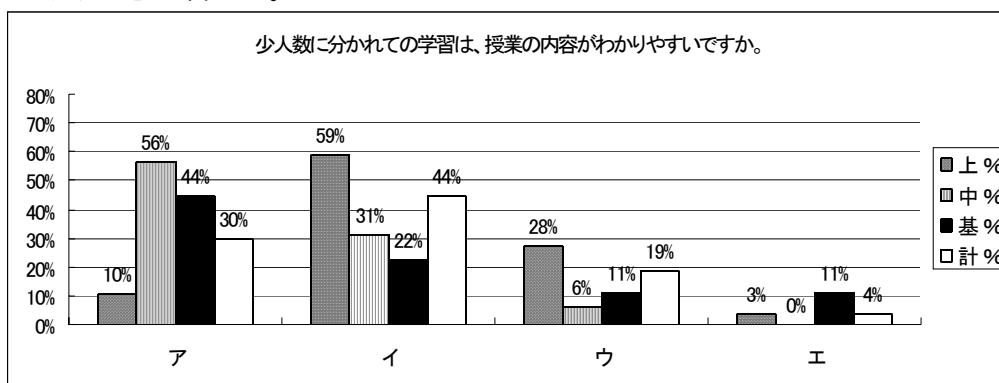
直接的な成果とは言えないが、2学年の偏差値でみると、昨年度の2学年よりも2.7ポイント高くなった。

数 学	現1年生	現2年生	現3年生
平成14年度	- - . -	51.3	45.6
平成15年度	50.9	48.3	48.5
同一学年比較		-3.0	+2.9

同一学年で比較すると、現3年生は昨年度よりも2.9ポイントも向上がみられた。

しかしながら、マイナスポイントもみられ、特に現2学年では「図形」が著しく低く、また現1年生では「数量関係」が低いため、重点指導、個別指導をしていく必要がある。

T・T及び習熟度別クラス編成に関する生徒のアンケート（15年11月実施）によると、T・Tによる授業（現1年、現2年）では、8割以上が「わかりやすい」と答えている。また、習熟度別授業（現3年）では7割の生徒が「わかりやすい」と答えた。



現3学年対象習熟度別学習のアンケート（平成15年11月実施）

アとてもわかりやすい イわかりやすい ウわかりにくい エ全くわかりにくい
 上 = 上級クラス, 中 = 中級クラス, 基 = 基礎クラス

2. 今後の課題

習熟度別、少人数指導について

- ア 少人数・習熟度別学習だけで学力が上がるものではなく、個別指導・教材の精選、指導の工夫と改善の研修が必要である。
- イ 学力差が生じやすい数学・英語の免許所持教員が1人であるため、少人数・習熟度別学習が困難な状況である。
- ウ 中間層の生徒への指導の充実の在り方について。基礎・中級学級の中でさらに個に応じた学習が成立するような指導方法を工夫し、生徒全員が満足感を味わえる授業の創造。
- エ 限られた時数の中で、基礎・中級学級で、何をどこまで扱うのが効果的かの判断が難しい。生徒の実態を十分考慮し、教材研究をいっそう深め、指導計画の改善に努める必要がある。
- 学力を確実に身に付けさせるためには、まず教師自身が教える工夫を深め、教える意欲を常に高めていかなければならない。
- 一人一人の生徒が関心を持つ多様な教材の開発、自ら取り組める課題解決的な学習や生徒が待ち焦がれるような授業づくりなど工夫する必要がある。

学力把握のための学校としての取組

1. 基礎的な学力が向上したかについては、標準学力検査結果の変容で把握する。
2. 絶対評価における各教科（数学・英語）の内容を具体的に想定しながら、「十分満足できる」「概ね満足できる」状況実現の変容で把握する。
3. 個人の理解度・習熟度を把握するデータファイルを制作し、いつでも閲覧できるように共有する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研修会、説明会等の開催実績及び開催予定
 - ・開催実績 平成15年4月23日（水）小・中学校校長研究協議会
平成15年5月7日（水）小・中学校教務主任研究協議会
 - ・開催予定 日 時 平成16年11月19日（金）午後の半日日程
場 所 柏村立柏中学校
テーマ 確かな学力向上への挑戦
対 象 西北五管内中学校教員他
 - ・HPは作成中であるが、段階的に公開中である。
- アドレス <http://www.geocities.co.jp/NeverLand-Mirai/3932/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無